

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

年間 1,000 件以上の手術があるため、医師による勉強会も含め病棟勉強会を 18 回開催した。整形外科疾患、手術の知識を深め看護に繋げるように努めた。年間計画以外でも入院患者の状況にあった勉強会を開催することで、牽引など初めて担当する看護師でも統一した看護が行うことができた。ナーシングスキルの視聴を促し、知識、技術の向上に努め、看護の質を維持し、安全な看護を提供した。

2) 病院の運営・経営に参画する

平均患者数 45.6 人、病床利用率 95.0%、病床稼働率 100.2%となっている。病床稼働率は 100%を超えており、有効な病床運営をすることができた。

SPD カードの紛失やコスト漏れは、ポスター掲示や相談会で注意喚起を行った。その結果、前期に比べ後期には SPD カードの紛失やコスト漏れが減少した。重症度、医療・看護必要度の評価基準該当患者割合は 50%以上となっている。入力漏れの確認を行い日々の評価は入力されている。排尿自立支援加算、認知症ケア加算、退院支援加算は、担当者が指導し、算定漏れ防止に努めた。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

インシデントカンファレンスで事例分析を行い、再発予防の対策を立てている。しかし、対策の徹底ができていないこともあるため、安全な看護が提供できるよう努めている。PPE 着脱確認を全スタッフに実施した。正しくできていない場合には、指導を行い、全員が正しく着脱できるようになった。今後も正しく PPE 着脱ができていないか確認し、標準予防策の徹底、感染防止に努めていく。

4) 専門職としての能力開発に努める

フレッシュパートナー会を開催し、パートナー、看護師長、副看護師長で新人看護師の成長を確認・共有した。看護研究を 2 題取り組み、1 題は院内発表、1 題は日本股関節学会に Web 発表を行うことができた。今回の研究で自己リハビリの有効性が確認できたため、今後患者指導に活用する。

5) 看護の先輩として学生指導に携わる

学生ノートを作成し、指導した内容が継続できるように努めた。CE が不在となる日は、学生についての情報を看護師に伝えることで指導が統一できた。

6) 活気ある職場、元気の出る職場作りを推進する

超過勤務時間は前年度に比べ月平均 8 時間増加している。ペアの再編成を開始し、ペア間でコミュニケーションをとり業務調整を行っている。再編成開始後の評価を行い、超過勤務の削減にもつなげていきたい。

2. 病床運営状況

表 1 令和 2 年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	整形外科	82.1	80.9	45.6	17.0	95.1	100.6

重症加算病床		有料個室		死亡者数 (人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	97.0	7	103.7	4

3. 看護体制

表 2 令和 2 年度 看護体制(令和 2 年 4 月 1 日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
32	PNS [®]	3:3

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表 3 令和 2 年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度Ⅱ

基準を満たす患者 の割合(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		57.9	57.7	59.2	59.7	59.7	58.5	65.0	68.3	63.8	51.5	60.1	62.7

2) 部署データ

(1) 令和 2 年度 クリニカルパス使用件数 1,117 件

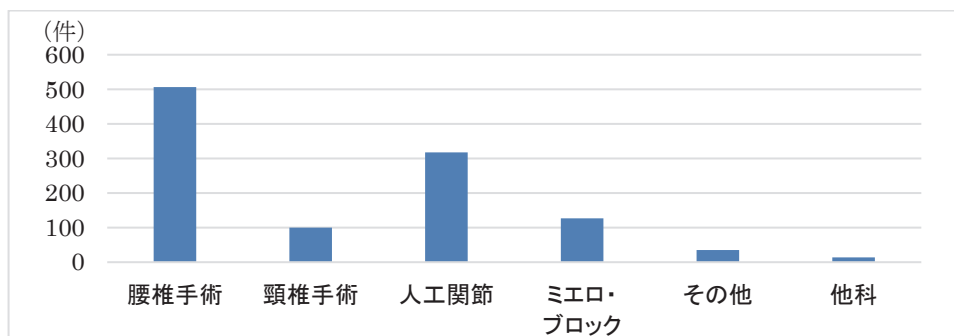


図1 令和 2 年度 クリニカルパス使用件数

(2) 令和 2 年度 手術件数 1,063 件

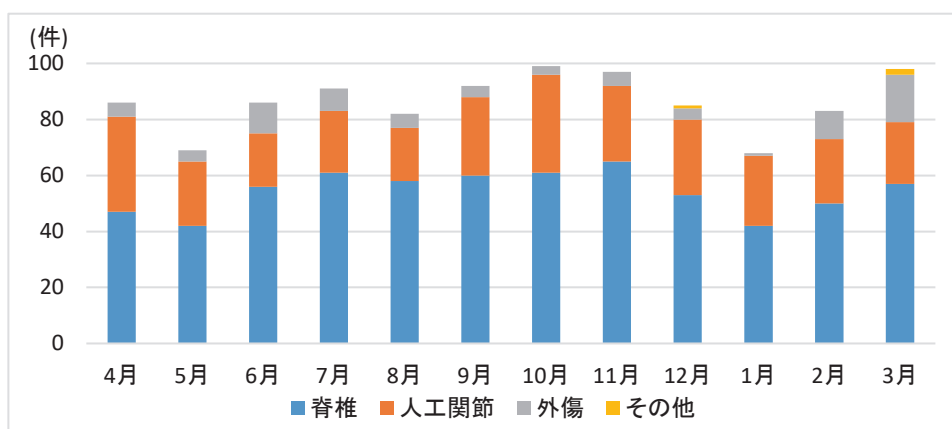


図2 令和 2 年度 月別手術件数

5. 研究実績

- 1) THA術後患者におけるベッドから降りる向きについて

小林 珠生

第 47 回日本股関節学会学術集会

2020 年 10 月 24 日